

一人一人にあった、生きる力をつけるためのキャリア教育はどうあるべきか
～小・中における授業実践を通して～

I 研究の内容

1 研究方法

- (1) 小・中で授業実践を行う。
- (2) 理論研究として学習会を行う。
- (3) 授業（教科を含む）とキャリア諸能力との関連を明らかにし、各校よりもちよる。
- (4) 高校入試制度の課題を検証する。

2 研究の具体的内容

(1) 授業実践

①山梨北中（鶴田一路主幹教諭）第1学年社会科

『文明とおこりと日本列島』「縄文の人々の生活」

日本における原始の時代の学習は、文献がないので遺跡や出土品から考察していくしかなく、考古学の研究から得られた成果を子どもたちのどう伝えていくのかが重要になってくる。縄文や弥生の時代は研究成果から得られた時代の想像図を使い当時の様子や生活や連想させることが多いが、この授業では想像図の中に生活する自分たちと同じ世代がどのような夢や希望を持っていたのかを考えることによって当時の生活の様子を理解すると同時に現在の自分たちの生活との違いや将来の可能性の多さに気づくことを目的に授業を考えた。

地域にある膳棚遺跡の例をとおして、具体的に縄文時代の人々の暮らしを考えることで、役割や仕事について考える

②塩山北小（岡村澄人教諭）第5学年社会科

『暮らしを支える情報』「インターネットの活用法を考えよう」

情報社会に生きるためインターネットを正しく利用していく知恵を持たせる必要がある。送信する側としてもモラルやプライバシーに配慮することや、自分自身の個人情報を送信しないことにも気をつけなければならない。子どもたちがよりよい生活を送るために、情報に対して適切に判断し、望ましい行動がとれるような能力や態度を見つけられるようにする。

(2) 実践・資料発表

- | | |
|------|-----------------------------|
| 塩山北小 | 道徳（第2学年）「新しい自転車」、社会科（第5学年） |
| 祝小 | 国語科（第5学年）「豊かな言葉の使い手になるためには」 |
| 八幡小 | 学級活動（第2学年）「がんばろう運動会」 |
| 塩山中 | キャリア教育全体計画、職場体験学習 |

塩山北中	英語科の中でのキャリア教育
勝沼中	キャリア教育全体計画, ジベ処理実習(農業体験学習)
山梨南中	職場体験学習
山梨北中	社会科(第1学年)「文明のおこりと日本列島
笛川中	道徳「夢をあきらめない」「サッカー日本代表チームとは」

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- ・キャリア教育の視点を取り入れた教科の授業について小・中ともに社会科での授業研究を行った。その際、集団における自己の役割を意識させる授業や言語活動を通してキャリア教育で求められていることの実現に向けた取り組みも行うことができた。
- ・授業内での活動において、身近な話題として子どもたちが考えられるようにする工夫が必要であることを、授業実践を通して改めて感じることができた。
- ・インターネットやメールの利用による問題が生じている中学生より前の段階で、小学校で指導することは、今後ますます必要になってくる。授業実践を通してこうした小中の連携も図ることができた。

2 課題

- ・各校の取り組みを共有し、職場体験や職業講話などの進め方をさらに工夫していく。
- ・小中の連携同様、人間関係の構築や学力保障の点から、中高の連携も今後さらに必要になってくると思われる。高校説明会や高校からの中学校訪問時以外にも高校教師と話をする機会を設定していく必要性も感じる。
- ・高校入試課題アンケートの結果を活用して、部会研究で出された意見を中学校からの要望として様々な機会を利用して高校側へ伝えていくことも必要である。10月に説明があった公立高校前期入学検査方法の変更についても検証していく必要がある。
- ・今年度の研究のように、総合・特活などでの取り組みに加え、発達段階に応じて普段の授業の中にキャリアの視点を入れて考えていくことも、小中に関わらず授業作りのヒントとなるので継続していく。
- ・高校入試制度等に進路に関わる情報は、小学校で先を見通した適切な支援をしていきたいためにも中学校の先生から小学校へ提供していくことが必要である。
- ・県内外のキャリア教育推進校などの実践から学べる機会があるといい。

Ⅲ 研究の成果物

小学校5年(社会)学習指導案
 中学校1年(社会)学習指導案
 各校実践レポート

(部長 辻 純二)